

今月の御教え

天地金乃神は人間の親神である。かわいいわが子を、どうして難儀に遭わせなさるであろうか。わが子をもつて納得するがよい。

……「天地は語る」第五条……

解説

子が自然と親孝行の思いを抱くのは、親というものが、子を産み、独り歩き出来るまで育ててゆくのに、一生懸命で何の打算もないからであります。

そのように私達の本体の親である天地金乃神様の思いは「只々私達人間がいとおしく可愛くてならない」との思いしかないのであります。

故に神様が、罰を当てたり祟ったりすることは全くあり得ないことであります。ですから信心して起こってくる不幸や災難は「信心して神の思い願いを知り、御蔭を頂き助かって欲しい」との御気付けであります。

そうして、その神様の思い願いを知って助かってゆくには「神人あいよかけよの生活運動」の「願い」を頂き現わして行くことであります。

来年は本教の立教百六十年、西条教会の二代教会長先生・三十年、夫人・十五年の記念すべき御年柄であります。共々にお蔭を頂きましょう。